



vol.3 ブラック&ホワイト



長男のテニスラケットの、ガットを張り替えに行ったついでに。

釣り用にグローブを買うのは、おそらく20年ぶり。

以前、押入れから大量にグローブのストックが出て来て、思わず撮ってFacebookに投稿したことがあるけれど、20年くらい前はキタムラのレスキューというグローブが流行っていた。いろんな色があった中で、人気は断然

ホワイト。僕らは、そのトリコロールカラーのリスト部にシビれた。その後、革の柔らかいレスカスってのも流行った。いずれもホンモノのレスキュー隊員用グローブ。早川インストラクターが会長のマスターズクラブ会員の中に、消防士さんが居たと聞いている。そこから始まったブームだ、と。

ハヤったって言ったって、関東の、それもホンの一部だったのかもしれない。当時、僕の周囲には、マルキューの人達はあんまり居なかった。ふまつげんを使う人、それもマスターズクラブの人達がメイン。僕は入会しなかったけど、姉妹会であるサンデーマスターズには入っていたし、ゴールデンクラブと北斗へら鮎会で、最低でも月に2回は顔を合わせていた早川インストラクターの影響は計り知れない。

と、ここまで書いてきて、早川インストラクターってマルキューの早川さん？？？って感じる人も居るのかもしれないですね。ふまつげんってナニ？みたいな。時代は変わりました。…いや、何も変わってないかもしれませんね。時間は進んでも。

当時の僕にとってその釣り姿は、マジカッコ良くて、もう、目に焼き付いちゃったワケですよ。氏がアドバイザーを務めていたヤマサ製品もそうだけど、有り金全部突っ込んでもいいからコピーしたいと思うほどに、カッコ良かった。本質なんて分かっちゃいないでカッコ良さなんて語れないワケだから、とりあえず僕の目には「カッコ良く映った」と訂正しておこう。現在の僕が、氏がカッコ悪かったと振り返っているつもりでは、決してないので念のため（笑）。



「こういうのが、カッコイイに違いない。カッコ良さってのはこういうことだ！」
それはもう、盲信と言って良く、そのブツの何処が、何故、素晴らしいのか？なんて理解は不要だった。思考も停止し、白黒付ける必要さえない情熱。僕も若かった。当然グローブもマネして、氏と同じように、その日のコーディネートに応じて使い分けたいと思った。けど、2~3回使うと色が褪せるレスキューのブラックにはウンザリ。一回着たら下着を捨てるブラピのような身分ではないし、悔しいけど、黒は別のモノを探すことにした。

早川さんやレスキューに出会う前は、ゴルフのグローブを使っていた。25年くらい前のこと。とにかくその頃の釣り用グローブって言ったら、防寒用がメインであって、競技用のスベリ防止なんて視点は一切ない時代。その後ようやく市場に出てきた競技用へらグローブは、勘亭流フォントだったか、わざわざ「へら」と平仮名二文字で、なんともオサレなロゴがおどられていたように記憶している。そして、指が5本とも切られていた。なんせ古い記憶なので、複数の製品を混同しているかもだけど、いくらなんでもそれはダセーだろ、と。切るのは親指と人差指でじゅうぶん。なんなら、切らなくたっていい。そう言える、時代背景があった。

セット全盛の現在、ボソのバラケをラフ付けするのに、片手だけってのはキツイ。抜くタイミングの調整として、ハリを上から刺し込むケースが増えれば、竿を持つ手の指先の出番も多いことになる。そうすると、グローブの指先はカットされていた方が使いやすそうだ。では、カット不要の時代はどんなエサだったのかと言えば、共エサ。しかも両トロコン全盛の時代。下から引き抜くエサ付けが前提のトロコンは、ダンゴと違ってハリを持つ必要が全くないと言って良い。ハリスに触れるだけなら、指先ではなく指の腹でじゅうぶん。懐かしい。

転職し、僕が釣りから遠ざかり始めた頃は、機能的にはだいぶマトモなグローブが各社から発売され始めていた。それでも僕の気に入るデザインは無かったし、釣りでも天邪鬼な僕が芽生え始めたことも重なって、他人と同じモノを持ちたくないという意識が強かった。レスキューはまだ使っていたけれど、新しいグローブを探し求めた僕は、以前使っていたゴルフ用を検討した。けれど、一度リスト部のあるグローブを使ってしまうと、あけっぴろげなゴルフ用の裾は耐えられない。それに、釣りと並んで国民的二代レジャーと呼ばれた時代もある、ライバルのグッズを使うのも癪に障る。僕はゴルフはやらないし。そんなことを考えな



がら、スポーツ用品店でゴルフのグローブを眺めていた時、ナイキのグローブを発見。ナイキゴルフ。タイガーウッズと組んで、ゴルフにも展開しようとするナイキの新しいラインだった。正直言うと一瞬、ニキゴルフ？って思っちゃったんだけど（笑）。

ナイキのロゴはスポーティだと思った。ブリジストンやダンロップ、タイトリストとかピンとかと、釣りに無関係なブランドロゴであるのはナイキも同じだったけど、スニーカーやTシャツ、バッグやタオルなどで、子供の頃から僕の日常に溶けこんでおり、総合スポーツブランドとして、釣りでの使用も許せる。僕にはそう思えた。それでも、ゴルフ用グローブの裾の問題は解決されたワケじゃない。手首をキュッと締めないグローブじゃなきゃダメなんだよ…ガッカリしながらゴルフ用品売り場を後にし、野球用品売り場に差し掛かった瞬間、僕の目は見逃さなかった。ナイキの野球用グローブを。僕の理想とするカタチは、ゴルフ用ではなく、実は野球用にあったのだ。

いまでも、釣具メーカーのグローブにはアレルギーを持つヘラ師が多いのか、ゴルフ用を転用している人をわりと見かける。そしてたぶん、野球用を使っている人はまだ多くなく、話のネタにもなる状況だと思う。カットする本数、深さ、そういうものにコダワリがあるヘラ師諸兄には、野球用をおススメ。アディダスもありましたね。

2014.7.16 江成 公隆